



営農NEWS



水稻のニカメイチュウやイネドロオウムシによる被害発生に注意しましょう

1. ニカメイチュウ

ニカメイチュウによるイネの芯枯れが、地域により、少しずつ増加する傾向にあります。

本虫は、年に 2 世代で発生します。イネ刈り株や稲ワラ内で幼虫越冬し、羽化した成虫が 5~6 月頃に本田の稲に産卵します。ふ化した第 1 世代幼虫は茎内に食入し、6 月下旬~7 月下旬頃に茎の下部が黄色くなり、芯葉が枯れる芯枯症状が発生します。その後、再び蛹化、羽化、産卵を繰り返して、ふ化した第 2 世代幼虫が 8 月中~下旬頃から茎内や芯部に食入するため「出すくみ」や「白穂」の被害が発生します。

病害虫発生予報 6 月号（県病害虫防除所）によりますと、5 月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺時期は平年よりやや早く、誘殺数も多い地点があることから、本年の第 1 世代発生時期は平年よりやや早く、発生量は平年よりやや多いと予想されています。

防除としては、本田における発生状況をよく観察し、必要に応じて第 1 世代幼虫を対象とする場合には 6 月中旬頃に、第 2 世代幼虫を対象とする場合には 8 月中旬頃を中心に薬剤防除を行ってください。

表 1 水稻 ニカメイチュウの主な防除薬剤（平成 26 年 6 月 11 日現在）

薬剤名	使用量(10a あたり)または希釈倍数	使用時期 / 使用回数
スミチオン乳剤※	第 1 世代対象 1,000~2,000 倍 第 2 世代対象 800~1,000 倍	収穫 21 日前まで / 2 回以内
パダンSG水溶剤	1,500 倍	収穫 21 日前まで / 6 回以内
スミチオン粉剤 3DL※	3~4kg	収穫 21 日前まで / 2 回(出穂前は 1 回)以内

注) ※印の薬剤は同一有効成分を含みますので、総使用回数に十分注意してください。

2. イネドロオウムシ

イネドロオウムシの発生は、県北、県央、鹿行地域で多く見られましたが、近年は発生の少なかった県南、県西地域においても被害される株が目立つようになってきました。本虫は越冬場所から田植え後の本田に侵入し、例年 6 月上旬頃から幼虫が発生して 6 月下旬頃に最も被害が目立つようになります。また、この時期中に曇雨天が続くような年には多発生する傾向があります。

病害虫発生予報 6 月号（県病害虫防除所）によりますと、5 月下旬現在、平年並の発生となっていますが、6 月 5 日から梅雨期に入り、曇りや雨の日が続いていますので、今後の発生には十分注意して下さい。

特に、過去においてイネドロオウムシの被害が激しかった圃場で、本年の田植え時にイネドロオウムシに有効な（持続効果の長い）薬剤を苗箱施薬していない水田などでは、本年も被害が発生する恐れがありますので、本田における発生状況を観察し、必要に応じて薬剤防除を行ってください。

表 2 水稻 イネドロオウムシの主な防除薬剤（平成 26 年 6 月 11 日現在）

薬剤名	使用量(10a あたり)または希釈倍数	使用時期 / 使用回数
シクロパック粒剤	小包装(パック)10 個(600g) (水田に小包装のまま投げ入れる)	収穫 60 日前まで / 2 回以内
トレボン粒剤※	2~3kg	収穫 21 日前まで / 3 回以内
キラップフロアブル	2,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内
トレボン乳剤※	1,000~2,000 倍	収穫 21 日前まで / 3 回以内
MR. ジョーカー粉剤 DL	3kg	収穫 7 日前まで / 2 回以内

注) ※印の薬剤は同一有効成分を含みますので、総使用回数に十分注意してください。

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040